



こどもの 居場所づくり

事例集
2024

ほっとしたり ワクワクできる
こどもまんなか みんなのいばしょ



ごあいさつ

長崎県では、将来を担う子どもたちの社会での多様な活躍を願い、子どもたちが安全・安心な環境で健やかに成長し、その能力と可能性を高めることを目的に、安心できる子ども場所が身近にあり、子どもが笑顔で過ごしている長崎県の実現を目指しています。

近年、地域のつながりの希薄化や少子化、核家族化に加え、公園等の使い方や遊べる場所の制限等により外遊びの機会が減少するとともに、オンラインゲームや動画視聴を中心とした室内遊びが増加するなど、子どもたちの体験の機会が乏しくなっている現状があります。子どもたちの健やかな成長のためには、子ども同士が集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながら互いに影響し合って活動するなど、様々な体験の機会や居場所、人間関係などが必要不可欠ですが、昨今の社会的背景の変化など大人社会の事情が、子どもたちからそれらを奪ってしまっているのではないのでしょうか。

本県では長年、ココロねっこ運動の推進等を通じて、大人みんなが子どもの心を育てようという気運の醸成に努めてまいりました。県内各地には、子どもたちを支えている、また、支えたいという方々が数多くいらっしゃいます。今こそ、こうした県民、団体、企業などの皆様と一緒に、失われた子どもの居場所や体験の機会を

取り戻し、充実させていく必要があると考えています。

「子ども場所」とは、子どもたちが安心して過ごすことができ、また、やってみたいことを体験・挑戦できる場・環境・機会のことです。ご飯を食べたり、遊んだり、勉強を教えてもらうだけでなく、子ども同士や大人など多様な世代と交流することで、「自分は皆から愛される存在なんだ」という「自己肯定感」や「社会を生き抜く力」を育む場となることも期待されています。さらに、子どもだけでなく、地域にとっても、様々な人々が交流する地域づくりの拠点としての役割を果たすことが期待されています。

このたび長崎県では、子ども場所づくりについてこれから取り組む方や、活動を広げようと考えている方に向けて、県内のさまざまな地域で行われている取組を集めた「子どもの居場所づくり事例集」を作成しました。今後も事例の追加・更新を行っていく予定です。

本事例集が、地域ならではの子ども場所づくりや、活動継続の一助になることを願っています。

結びに、本事例集の作成にあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

令和7年2月

長崎県福祉保健部 子ども政策局子ども未来課長

contents

ごあいさつ	01
-------	----

居場所づくり事例集に寄せて

一般社団法人 ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子	03
NPO法人 フリースクール クレイン・ハーバー 代表 中村 尊	04
ながさき子ども食堂ネットワーク 事務局長・もくもく食堂 代表 数山 有里	05
国立諫早青少年自然の家 所長 蓮見 直子	06

居場所づくり事例

GOKOU(長崎市)	07
放課後SUNKIDS(長崎市)	09
体験学習クラブ さ〜くる(長崎市)	11
フリースクール クレイン・ハーバー(長崎市)	13
つなぐ・つながるボレボレ(佐世保市)	15
まつなぎや(大村市)	17
みんなのまなびば み館(長与町)	19
みんな食堂(波佐見町)	21
自由楽校ゆめまある(川棚町)	23
地域を編む「女性たちのネットワーク」子どもを守る 長崎ひまわりプロジェクト	25

区分について



居場所の活動をわかりやすくお伝えするために、9つの区分で表記しています。

※各団体の内容は、2025年1月時点の内容です。

アイコン説明	🏠 名称	📍 開催場所	🕒 利用日時	💰 利用料	👤 対象
	📄 申し込み	👥 実施団体	📞 問合せ先	✉️ メール	📅 開催予定
	❓ その他	💻 ホームページ			

「地域で支える、こどもたちの今と未来」

一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子

みなさん「こどもの居場所」ってどんな所だと思いますか？

子ども食堂・フリースクール・学習室・プレーパーク等いろいろな居場所が頭に浮かぶのではないのでしょうか。

あらゆるこどもたちを対象とした「居場所」、不登校・虐待・発達障害など困難なケースに対応する「居場所」など、こどもの居場所は多種多様です。

私たちが運営している「居場所」は課題があるご家庭に対応した子ども食堂、こどもたちの生きる力をはぐくむ第三の居場所、塾に行きたいけど経済的な理由でいく事が出来ないこどもたちへ学習の機会を作る学習室、「食」を入口に家庭全体を様々な関係機関でつながり支える宅食があります。

私が居場所で出会ってきたこどもたちは様々な家庭の環境や課題があります。こどもたちが抱えている問題は決して一つではなく「つながり」「生きていく力」「学びの環境」「将来の不安」などが複雑に絡み合っており、こどもが大人に

なるために必要な経験や機会が奪われている現状がありました。そこで私たちは、こどもたちが自立していく中で、その経験や機会が奪われてしまう可能性があるこどもたちに対して、一人ひとりにとって必要となる、あるいは生きていくうえで人との関わりで得られる体験機会がある「居場所」を作りこどもたちと過ごしています。

こんな話を聞くと「居場所」って専門の人がするものなの？と思われる方もいると思いますが、そうではありません。ある居場所では、小学校低学年の男の子が80代のボランティアさんの腕に触れて「やわらかい・・ホッとする」と言ってウトウトする場面がありました。「居場所」はこどもたち一人ひとりの「ホッ」と安心することが大切だと感じた瞬間でした。

これから長崎県の中に様々な「居場所」が出来てくと思います。こどもの権利を大切に、地域のこどもたちに必要な「居場所」が出来ていくことを楽しみにしています。

「こども居場所の意義、実践の中で感じていること」

NPO 法人 フリースクール クレイン・ハーバー 代表 中村 尊

長崎市でフリースクールを運営して20年、フリースクールは不登校のこどもにとって学びの場であると同時に居場所でもありました。「学びの場」と「居場所」と何が違うのか？もちろん、両方の役割を兼ねることもできますが、違いを言うならば「学びの場」には、「学ぶ」という目的があります。塾や習い事などは目的やすることがハッキリしているから「居場所」とは呼ばれません。「居場所」は、自分の存在をありのままに受け入れてくれる場所、何もしなくても安心していれる場所のような、その人にとって居心地のいい場所です。ドラマなどでお父さんが「俺には会社にも家にも居場所がない」などのセリフを言ったりしますが、「会社でも家でもありのままでは受け入れてもらえない。安心して居心地よく過せない」ということでしょう。

国において、令和5年12月に「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定され、こども家庭庁がリーダーシップを取り、こども・若者の声を聴きその視点に立った居場所づくりを推進していくこととなりました。国が「こどもの居場所」が大切だと宣言していると同時に、「今のこどもには居場所がない」という認識も伺えます。現代日本には「学校にも家にも居場所がない」こどもたちがいるのです。

学校が過度に競争や評価に晒される場所になっていたり、家では疲れて帰ってくる親に気を使ったり、中には家でも「すること」が多くて気が休まらない子もいるでしょう。こどもの頃からストレスの中で張りつめて暮らしていたら自己受容感も意欲も削ぎ落され、気力がなくなり生きることを楽しみを見出せなくなるのではないのでしょうか？

以前、フリースクールの卒業生がふらっと遊びに来たときのこと、「実家感が半端ない！」と言ってゴロンと寝転がりました。久しぶりに顔を見せに来ただけでなく、自分を取り戻しに来たみたいでした。自分をありのまま受け入れられ安心してくつろげ、現代社会のストレスから一時でも解放される居場所があれば自己受容感も意欲も取り戻せると、これまでフリースクールに通ってきたこどもたちの様子から感じます。

居場所には「窓」の機能も必要です。安心してそこに居ながら外の景色(社会)を見れる、社会を知れる・つながれる役割です。この点についてだけでも話せば長くなり、到底ここで与えられた文字数では伝えきれません。こどもの居場所が増え、かつその質が確保されることが地域にとって大切です。そのためにこどもの居場所に関わる地域のおとながつながりあい支え合い、学び合っていきたいです。

「一緒に食べよう」

ながさき子ども食堂ネットワーク 事務局長・もくもく食堂 代表 数山 有里

今日も「たたいま!」と言って、子ども食堂に集う、子どもたちやママたち。話し声や、笑い声が会場を温かい雰囲気にしてくれ、今日もホッとできる私の居場所になっています。

長女が小さい時の子育てでは、主人が出張も多かったこともあり、子育てに孤独を感じ、さらに長女に病気があり、子育ての不安感も感じていました。

そんな時、長女が心臓の病気で手術をして福岡の病院に入院することになりました。不安で不安でたまらなかったのですが、同じ病室の子のお母さんたちから励ましてもらって不安を乗り越えられました。その時に共感してもらった安心感だったり、つながることの大切さを痛感しました。

「子ども食堂」は子どもだけでなく、いろんな人と交われます。子育て中のお母さん、孤立しがちなお母さんが子連れで集まって、一緒にご飯を作って一緒に食べる。そしてつながりができる。これなら私にもできるかもしれない、私自身がお母さんたちとつながりたい、そう思って

子ども食堂を始めました。

実際に始めてみるとたくさんの発見がありました。

自分が発見できない子どもの良さを他のお母さんが発見してくれる。

一人っ子の子どもが年下の子どもたちの面倒をみてくれる。

参加したお母さんが子ども食堂のためにすすんで手伝ってくれる。

私自身、子育てが完璧にできているわけではありません。そんな時にこの子ども食堂で何度も心を救われました。

子ども食堂は、居場所としても役割があると思います。そして今、子どもや、大人も居場所を求めている人が沢山います。来てくれる人が安心して安全な居場所としてあり続けたいと思っています。

活動が続けるのは大変な時もありますが、地域のみなさんとながって、まわぐるみでの子育てができるような環境をこれからも作っていききたいと思います。

「すべての子どもが幸せに育ち、学ぶために」

国立諫早青少年自然の家 所長 蓮見 直子

◎子どもの頃の体験は必需品

変化の激しい社会の中で、子どもたちがたくましく生き抜くためには、学んだ知識を現実社会で使いこなしていく力を身に付けることが大事だと言われています。

知識を実社会で使いこなす力を身に付けるためには、学力などでは測れない非認知能力(意欲やへこたれない力、コミュニケーション力といった情動・感情に関連する能力)を高めることが重要で、子ども、特に乳幼児期に高まると、それが生涯にわたり影響し続ける可能性が示唆されています。

非認知能力を高めるためには、学んだ知識を試行錯誤する「場」と、多様な「人間関係」が絡まる体験の機会が必要不可欠です。

子どもの頃の体験機会の差が、将来の学歴や収入にも影響するとの指摘もなされています。子どもの頃の体験は“必需品”なのです。

◎「こども基本法」「子どもの権利条約」

令和5年4月に施行された「こども基本法」は、日本国憲法、児童の権利に関する条約(以下、「子どもの権利条約」という)の精神にのっとり、全ての子ども

について①個人としての尊重、②福祉に係る権利の保障、教育の機会均等、③社会活動への参加機会の保障、④意見の尊重、最善の利益の優先、⑤家庭での養育環境の確保、⑥家庭・子育てに夢を持てる社会環境の整備、を基本理念としています。

全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会を目指した「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子どもにとっての“必需品”である体験は、この社会に生まれた全ての子どもが享受できて然るべきものです。

◎私たち大人が変わるべき

今改めて、私たち大人が子ども観の転換をしていくことが重要です。子どもの権利条約にある子どもは「弱くておとなから守られる存在」という考え方から、おとなと同様にひとりの人間としても様々な権利、成長の過程にあって保護や配慮が必要な子どもならではの権利を認めること。

そして、体験機会の創出に多様でたくさんの大人の挑戦する熱意・決意が求められているのです。



GOKOU

こころは、
地域の若者の声から
生まれた居場所



🏠 GOKOU

📍 教宗寺門徒会館(長崎市矢上町40-25)

🕒 毎日(8:30~21:00頃) ※不定休

👤 お賽銭

👤 中学生・高校生

📱 公式ラインもしくはInstagramより空き状況を確認ください

👥 みんなの居場所「GOKOU」チーム

☎ 095-838-2707 ✉ rnq5nq.0824@gmail.com



子ども食堂



イベント



多世代交流



遊び体験



子育て支援



フリースペース



公式LINE



GOKOU.16

居場所づくりを始めたきっかけ

インターネットが普及し、若者たちはSNSやチャットで気軽に人と繋がることができるようになりました。その一方で、デジタルツールを使ったコミュニケーションは実生活とは異なり、他者との境界線が曖昧になりやすく、相手の感情や言葉を正確に理解しづらいことから、人間関係が不安定になりやすいという問題も生じています。また、学校や家庭、SNSなどで日常的に「正しさ」を押し付けられる中で、その枠から外れたときに自分の居場所を見つけられず、困ったときに頼れる相手がいない若者が増えています。こうした「関係性の喪失」を感じたことから、地域に気軽に繋がれる場所を増やしたいという思いで、若者たちに向けた居場所づくりを始めました。

お寺を活用したみんなの居場所「GOKOU」

長崎市内の若者たちの、「長崎にもっと居場所が増えたら素敵な街になるのでは」という声からスタートした居場所。本来、家や学校が居心地のいい場所であってほしいですが、中にはそうでない学生がいます。「GOKOU」は学校の後に行ける場所(後校)と、仏様の暖かい光(後光)から名付けられ、気軽に立ち寄れる第三の居場所になって欲しいという思いがこもっています。

お寺の会館の空き時間を利用しており、利用料はお賽銭制。勉強やくつろぎなど自由に使うことができます。地域に根ざしたお寺という安心感のある場を活かし、特にテスト前には多くの学生が利用し、少しずつその役割を広げています。

他にも
こんな居場所が
あるよ

矢上地区みんな食堂

コロナ禍に様々な世代に孤立が広がっている中、多世代交流を目的としてスタートした居場所。初めは交流をメインに立ち上げを行い、2023年からは「矢上地区みんな食堂」という名称で食事の提供を開始。地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し開催しています。お寺の会館を会場とし、誰でも無料で参加できます。

食事の提供だけでなく、参加者が一緒に調理をしたり、折り紙やボードゲームを楽しむなど0歳から80代まで世代を超えた交流が行われています。

季節ごとの食事や遊びを通じて、地域のつながりや新たな体験の機会を作ること大切にしています。貧困対策だけでなく、関わる様々な人が活躍できる場を目指しています。

はまのまち保健室「ユースカフェ」

「長崎性教育コミュニティアスター」が主催する若者が気軽に相談できる居場所。

2024年7月から浜の町のカフェFROM1で月に1回開かれます。中学生から20代の若者なら誰でも無料で利用可能。カフェには看護師や不登校支援者、思春期保健相談士などの専門家が常在しており、こころや体の相談はもちろん、学校や家庭の悩みなどを気軽に相談できます。勉強したり、ゆっくりくつろいだり、雑談したりと使い方は自由。お菓子や希望者には生理用品などの無料提供も行います。まちなかの保健室のような場所を目指しています。



放課後 SUNKIDS

“楽しい”
“が”
“あふれる”
放課後の自由な遊び場



🏠 放課後SUNKIDS

📍 毛井首公園・公民館

🕒 第3木曜日(15:00~) 🆓 無料

👤 主に小中高校生(小学生未満は大人と一緒に)ですが
特に制限はありません。

📱 不要 📱 放課後SUNKIDS

✉ kai55515@gmail.com

または [Instagram](#) ダイレクトメール@sunkids_kai55515



誰でも自由に入出りできる放課後の遊び場サンキッズ!!

放課後サンキッズは、学童でもない、習い事でもない、こどもたちが自分の意思で自由に入出りできる遊び場です。お金はいりません。友達とおしゃべりをしたり、お菓子をたべたり、おにごっこをしたり、ドッチボールをしたり。今日も楽しかった! と思ってもらえたら、ここで出会った友達と、学校で「おお、サンキッズで会ったね、おはよ」とか声をかけあえたら、うれしいです。一緒に遊びたい、ちょっと休憩したい、中高生やおとなも大歓迎。

放課後サンキッズをはじめて今年で10年目になります。この地域に引っ越してきたとき、まだ小学校にあがっていない我が子を公園につれていくと、高学年の男の子たちが我が子に声をかけ、遊びの仲間にいれてくれました。その光景をみてとても幸せな気持ちになったのを覚えています。昔はこどもたちだけのそんな光景が当たり前だったけれど、今はなかなか見られなくなってしまった。もっとこどもたちに自由に遊ぶ時間と場所があったら。そんな気持ちでサンキッズをはじめたら、たくさんのこどもたちが集まるようになりました。時間と場所があればこどもたちはこどもたちで遊びます。学校や家では見せない顔があったりもします。けんかやげがもします。そんな中でこどもたちはすすくと成長していく。これからもそんなこどもたちをサンキッズのおばちゃんとして見守って行きたいと思っています。

不定期勉強会も開催

テスト前など、こどもたちの要望もあり勉強会もやってます。休憩したり勉強したり休憩したり(笑) ご飯と一緒に食べることも。

コラボイベントもやってます

移動書店「しっぽ文庫」とサンキッズのコラボイベント「SUNしっぽ」。本が読めて買えて遊べる居場所を不定期で開きます。

拠点づくり奮闘中

現在しっぽ文庫さんと拠点づくりに向けて動いています。本やひと、素敵な出会いのある、だらだらわいわい自由に過ごせる居場所をつくりたい!!

放課後SUNKIDS活動の様子は

[Instagram](#) @sunkids_kai55515 プロフィールのハイライトにあります♪

お問い合わせは [Instagram](#) DMまたは ✉ kai55515@gmail.comまで





体験学習クラブ さ～くる

さまざまな個性の
子ども・青年が
実体験を通して
交流し育ち合う



- 🏠 体験学習クラブ さ～くる
- 📍 銭座公民館／市民会館／長崎駅などに集合して各活動場所に移動
- 🕒 土日や長期休み期間に毎月2回～4回程度
(内容により半日～4泊5日)
- 📅 活動内容により異なります(詳細はお尋ねください)
- 👤 年少児～成人
(内容により異なります。家族参加の活動は3歳以下も可)
- ✉ メールまたは電話(平日日中はメールをお願いします)
- 📞 体験学習クラブ さ～くる
- ☎ 090-1363-5991 📧 life_circle2005@yahoo.co.jp
- 💻 <http://circle2005.wixsite.com/official>



facebook



circle2005

団体設立の経緯と継続する中で感じていること

当会は、代表の吉田がさまざまな状況の方々との出逢いや声からその必要性を感じ、2005年に年齢や個性にかかわらず「みんな」がしあわせな世界」を大目的として設立しました。団体名の「体験学習」には主体的・能動的な実感を伴う「他者との共有体験」、そして「さ～くる」には活動の中だけに留まらない「循環・仲間・つながり」という想いを込めています。「社会的自尊感情」は他者からの評価で形成されますが、条件つきでなく「ありのまま」の自分がいいと思える「基本的自尊感情」は「他者との五感を通じた共有体験」でこそ育まれると言われており、20年間活動を継続する中で子ども・若者の成長や変化を目の当たりにし、その事を実感してきました。

子ども／保護者の様子や声と活動のアピールポイント

無人島でのキャンプやスキー・雪遊びなどの季節に応じた野外体験活動などを通して、子どもたちは仲間とのつながりや自他への信頼を育んでいます。一方、保護者の皆様からは子どもたちの成長を感じると共に、親自身が安心してリフレッシュできる機会にもなっているという声を頂きます。また、ボランティアリーダーとして携わっている大学生・社会人も「お手伝い」や「人手」ではなく子どもたちと共に育ち合うことを目指しており、最近は子どもたちから「将来リーダーになりたい!」という声をよく聞きます。「さ～くる」が安心して居られる場で生き生きと活動しているリーダーたちの姿を見てくれているからこそ、蒔いてきた「たね」が芽を出してきています。

現状の課題と今後の展望

課題は大きく二つで、まず資金面です。活動の性質やサポート体制維持のために経費率が高くなることに加えて物価の高騰などで厳しい運営状況ですが、参加費を極力抑えられるよう模索しながら続けています。もう一つは人的問題です。前述のリーダーたちが大きな力ですが、学生は毎年巣立っていきますし、常駐スタッフは代表のみです。とはいえ、各地域や業種の中で若者たちがあたたかな「わ」をひろげてくれていますし、新たなNPOなど立ち上げ活動を始めていることは大きな喜びであり、希望です。今後も、その時々状況や「声」に応じ「変わらないために 変わり続ける」しなやかさを持ちながら、次世代にバトンをつないでいけるよう歩みを続けてまいります。



フリースクール クレイン・ハーバー



学校に行ってる子も
行っていない子も
楽しく過ごそう！



- 🏠 フリースクール クレイン・ハーバー
📍 フリースクール・夜間の居場所：長崎市昭和3丁目387-1
📄 無 料 学 習 塾：長崎市恵美須町4-7長崎YMCAビル4F
🕒 フリースクール：月～金 9：30～17：00
(金曜のみ13：00迄)
夜間の居場所：月～木 17：30～21：00
無 料 学 習 塾：月～木 18：00～21：00
📄 フリースクール：35,000円／月
夜間の居場所：5,000円／月および食費・交通費(生活保護世帯は免除)
無 料 学 習 塾：無料
👤 小学生～高校生 ☎ 095-844-8899 ✉ crain_harbor@yahoo.co.jp
👥 特定非営利活動法人 フリースクール クレイン・ハーバー



こども食堂



イベント



学習支援



フリースクール



遊び体験



子育て支援



フリースペース



あそび場



ホームページ

フリースクールと子どもの居場所

フリースクールクレイン・ハーバーは、不登校の子どもの学び・育ちの場として活動を始め20年が過ぎました。最初の頃に来ていた子は「昭和生まれ」、そして今は「平成生まれ」の子が来ています。そろそろ「令和生まれ」の子も来るだろうなぁと楽しみです。クレインは学ぶ場だけではなく、不登校の子が安心して自分らしくのびのびと、そしてゆっくりとくつろげる居場所でもあります。居場所としてもベースの上で様々な人と出会い、主体性や自己受容、意欲や他者理解を身につけています。そんな居場所での子どもの育ちは、時代が移っても変わらないでしょう。

フリースクールクレイン・ハーバーは

子どもの権利条約の理念を大切に安心安全な居場所であることに努めています。主体性を育むために、また子どもも大人もひとりの人として権利を尊重するために「ミーティング」を行っています。どんな活動をしたとかこんなことを考えているという意見を子どもも大人も出し合えます。また、地域の様々な人との関わりや活動が活発なのもクレインの特徴です。森のおじさんの所では農作業や釣りやそば打ち、陶芸の窯元さんの所では薪割り、県民の森ではタケノコ掘りやクリスマス飾り作り等々、いろんなことを楽しんでいます。九州で水害が起きた年は被災地支援ボランティアに行きます。そのような機会では、子どもたちも社会の役に立てる自信と感謝しあう心を感じています。

夜間の子どもの居場所と無料学習塾

昼間のフリースクールの時間が終わると、ひとり親や共働きで子どもだけで留守番をしないといけない子どもを預かる夜間の居場所を開いています。夜間の子どもたちは宿題を済ませてみなどで夕食、そして思い思いに遊びます。時にはケンカしたりもしますが、助け合ったり理解し合うことを自然と身に付けています。夜間の預かりがあることで親御さんも安心して仕事ができたり、親子の会話の広がりもできているとのこと。夜間はもう一つ、中高生の無料学習塾も開いています。進学塾や個別指導塾に通う余裕のない家庭の子が自分のペースで学習し、わからないところをボランティアやスタッフに教えてもらっています。落ち着いて勉強できる場があるというだけでなく、無料学習塾も子どもの意思を応援する居場所になっています。

生き物といっしょに

クレインには猫とウサギがいて、子どもたちに大人気です。自宅ではペットを飼えない子もクレインの猫とウサギに癒されて、そして命の愛おしさを感じてくれているみたいで、やさしい表情で可愛がっています。

居場所として大切にしていること

居場所には、優しさを感じる「玄関」の機能、喧噪や暴風雨、暑さ寒さから守る安全な「壁」の機能、安心して自然体の自分でくつろげる人の温もりを感じる「居間」の機能が必ず必要です。そして、「窓」の機能も必要です。窓がない家ではいくら壁が丈夫でも不安になりませんか？ 外の様子や景色を見ることができるからこそ、外への関心が芽生えて社会とのつながりが始まります。「窓」には「カーテン」が必要です。「カーテン」には、外を見たくないときは閉め、外に関心をもったら開ける権利が保障されていなければなりません。もちろん、風を感じたかったら窓を開けて感じることもできます。これらの機能を備えている居場所で子どもは安心して育つのだと思います。

そして、居場所では子どもも大人も楽しく過せることが大切です。しかもつ面の大人がいるところでは、子どもは心が安らがないでしょう。子どもも大人も笑い合える、それを大切にしています。



つなが・つながる ポレポレ

“ ゆっ
くり ” “ ゆっ
くり ”

とした居場所
と大切に育む



🏠 つなが・つながるポレポレ

📍 佐世保市重尾町736番地

🕒 月・水・金・土(10:00~16:00)

💰 500円(大人のみ)

👤 対象なし(乳幼児から大人まで)

📞 来館時または、Instagram(people_2023)やメール・電話等

👥 つなが・つながるポレポレ

☎ 0956-59-7180

✉ tsunagariporepore@gmail.com



イベント



学習支援
(国語・英語のみ)



多世代交流



遊び体験



子育て支援



フリースペース



公式LINE



@POLEPOLE_2023

つながることで、うまれる喜びを社会に

めまぐるしく変化し、多様性が求められる社会の中で、孤立をうまない社会づくりや地域における人々のつながりの必要性を感じます。少子高齢化社会が進む未来において、子どもたちが健やかに成長していくためには、子どもたちに関わる大人たちが元気であることや心のゆとりが大切です。子どもたちのよりよい未来のために、大人も子どもも、社会の中でつながって、いろいろな人や世界に出会うことが、安心感や生きる喜びにつながると信じています。ポレポレは、スワヒリ語で「ゆっくり・ゆっくり」を意味します。ポレポレが生み出す空間がゆっくりとした居場所になること、そして、成果やスピード主義ではなく、子どもの成長をゆっくりと大切に育むことを願っています。

いろいろな世界に出会う・交流と体験の場づくり

活動拠点の「ポレポレの家」は、木や手づくりおもちゃ、絵本などで自由に遊んだり、ゆっくり過ごしたりできる空間です。子育て世代を応援し、ベビーマッサージやベビースサイン教室など、親子の触れあいの時間を大切にしています。オリジナル企画「あとのび・ポレポレ」は、子どもたちが、「ことばや運動・音の世界」に触れ、好きを見つけていけるよう、親子で様々な体験を楽しむ時間です。絵本の読み聞かせとクラシックギターのリズムや演奏を楽しめる「ギターと絵本」も、様々な世代に喜んでいただいています。ヨガ、健康講座に加え、国内外で地域や子どもたちのために活動する方々のお話は、大人たちが新しい世界に出会い、新たなつながりがうまれる場となっています。

分かち合えるコミュニティを！

ポレポレでの出会いは、偶然でありながらも、その時をともにする子どもや大人たちの間にコミュニティがうまれます。少しずつ顔見知りになることで会話が生まれ、互いの成長を楽しんだり、子育てに関する情報や悩みの共有の場となったりすることで、「子育てを分かち合える場」につながります。子どもたちが、いろいろな大人に出会う機会になり、「家庭ではみることができない子どもの一面や成長に触れることができる」との声もいただいています。また、子育てのため仕事を離れざるを得なかった母親たちが、自分の特技を生かして、講座を実施する場としても活用し、自分らしさを取り戻す場所にもなっています。

多くの方々の支えを、地域の力に、そして未来へ

私たちは、これからも地域やさまざまな分野で活動する方々の力をお借りしながら、「自分たちが楽しいと思うこと・社会に必要なと思うこと」を発信していきます。ポレポレが企画するイベントへの参加や施設を利用させていただくことにより、活動を続けることができます。今後も、私たちの小さな活動が、誰かの何かなるようになり、子どもたちの未来のために、多くの方々とながって、互いに生きる喜びを感じられる社会づくりを目指していきます。



まつなぎや

みんなそれぞれのスペースで
それぞれの過ごし方で



🏠 まつなぎや

📍 大村市竹松本町1000-22

🕒 火～土曜日（祝祭日は休み）

🆓 無料

👤 小学生から若者まで

📄 不要

👥 特定非営利活動法人schoolt

☎ 080-4285-0279 ✉ matsunagiya@gmail.com



こども食堂



イベント



多世代交流



フリースペース



ホームページ

現在の活動を実施するに至ったきっかけ

ヤングケアラー支援事業をするにあたって、相談窓口だけの開設では機能しないと思ったのがきっかけ。ヤングケアラーの多くが、様々な課題が複合的に絡みあっていて、単発の相談や支援による解決が非常に難しく、いわゆる「伴走型支援」としての関わりが欠かせないと考えています。また、信頼関係を築くことで、安心感を抱き、心を開くきっかけとなり、時間をかけて「共にいる」という場と人が必要であると思ったのも活動するに至ったきっかけです。

その中で感じていること

周囲からヤングケアラーと限定されないように、ヤングケアラーに限定せず、どんな子ども・若者も予約なしで利用可能としています。その結果、ヤングケアラーに限らず、様々な課題を持った子ども・若者はある一定数存在し、信頼関係を深めていくと皆一様に、元々持っている健康な部分の欲求を口にする傾向にあることが分かりました。それは、元々持っている健康的な部分の欲求を満たすためのSOSで、食事のことや、教育に関する事もあります。私達はこの場面を重ねるたびに、この場が子どもの権利を守ることと直結し、直接関わる事が可能な場所の一つではないかと思っています。

活動のアピールポイント

主な活動は、①相談窓口②広報・啓発③子どもの居場所の運営です。居場所では、子ども達が「自分で選択をする」つまり自由を尊重し、室内は音楽とアロマ・ドライフラワー等で、癒しをテーマに、お互い協力しながら落ち着いて過ごせる空間を意識しています。大勢の中には、課題を抱えた子ども・若者が利用しています。次のステップは「自分で選択する」という力が湧くまでの“間をつなぐ”という効果が居場所にはあることを確信しています。週末の土曜日は、ヤングケアラー当事者の会、子ども食堂、ワークショップとイベントを開催しています。当事者の会は、完全にクローズの場ですが、子ども食堂・ワークショップでは、地域の方のボランティア参加もあり、多世代交流の場にもなっています。親や先生以外の頼れる大人や大切にしてくれる大人が増えることは、子どもの成長過程で大切なことだと感じています。

みんなのまなびば み館

“地域のみんなのための
まちのリビング”



- 🏠 みんなのまなびば み館
- 📍 西彼杵郡長与町嬉里郷592-1
- 🕒 月～土(13:00～17:00)
- 🆓 無料
- 👤 どなたでもご利用頂けます
- 🚫 不要

きょうしつ参加についてはホームページから申し込み

👥 社会福祉法人ながよ光彩会
☎ 095-865-7755 ✉ mikan@mi-kan.jp

🌐 <https://mi-kan.jp/>



子ども食堂



イベント



多世代交流



遊び体験



フリースペース



み館



G000000000
STATION



かがやき

社会福祉法人ながよ光彩会の紹介

社会福祉法人ながよ光彩会は、地域福祉の充実を目指し、障がい者・高齢者支援など幅広い事業を展開しています。「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指し、福祉施設の開放や多世代交流など地域密着型の支援が特徴です。

その象徴的な取り組みのひとつが、「み館」です。福祉と地域が融合する場として、子どもから高齢者までが共に過ごし、学び合う空間を創出しています。「こどもの居場所」としての機能も重視しており、学校や家庭とは異なる、多様な価値観に触れることができる場所として、地域の子どもたちにとって貴重な場となっています。

活動のきっかけと目的

み館は“まちのリビング”というコンセプトをもとに生まれました。高齢者福祉の現場で培った知見を活かしながら、世代を超えて人と人が自然に関わり合う場を作りたいという想いが出発点です。従来、福祉施設は利用者とその関係者だけが出入りする閉ざされた空間であることが多かったのですが、「福祉施設が地域に開かれることで、地域全体が支え合いの場となるのではないか」と考え、その実践として「み館」が誕生しました。

また、地域における「こどもの居場所不足」も、この活動の背景にあります。近年、共働き世帯の増加や地域コミュニティの希薄化により、放課後や休日に子どもたちが安心して過ごせる場所が減少しています。み館では、そうした子どもたちが気軽に訪れ、遊びや学びを通じて健やかに成長できる環境を整えています。

活動のアピールポイント

「み館」では、子どもたちが単に受け身で過ごすのではなく、主体的に関わることができる仕組みを取り入れています。そのひとつが、子どもたち自身が「せんせい」となり、自分の得意なことを他者に教える機会を設けている点です。たとえば、料理が得意な子が他の子どもたちに簡単な料理を教えたり、絵が得意な子がワークショップを開いたり、自然な形で「まなびば」が生まれています。

また、多世代交流を重視している点も特徴です。高齢者施設の利用者や地域の大人たちが「ななめの関係の大人」として子どもたちの活動を見守りながら、時には一緒に参加することで、多世代が関わり合う環境を作り出しています。こうした関わりの中で、子どもたちはさまざまな価値観や経験に触れ、社会性を養っていきます。地域住民が主体的に関わることで、支援の受け手と支え手の境界をなくし、福祉をより身近なものにしています。

課題と今後の展開

講師(せんせい)という肩書きは地域の方には高いハードルのようで、引き受けて頂くことを遠慮されてしまうことや、学び・居場所づくりを共に支えてくれる担い手不足が課題です。民間企業が自主運営するみ館のような公益事業は、今後ますます求められてくるものと思います。運営資金の確保を行いながら、今後も信頼構築を重視して多世代交流を充実させ、子どもから高齢者まで全員が共に育つ居場所づくりを推進していきます。

まとめ

「み館」は、地域と福祉をつなぐ新たな試みとして、多世代が交わる場を提供し、こどもの居場所づくりにも力を入れています。今後も地域住民と協力しながら、誰もが安心して集える場を作り続け、「誰一人取り残さない社会」の実現を目指してまいります。



波佐見町 みんな食堂

背中を押してくれた
職場だからこそできた
「みんな食堂」



🏠 みんな食堂

📍 東彼杵郡波佐見町

🆓 無料

👨👩👧👦 波佐見町 子ども・健康保険課

波佐見町 食生活改善推進員

☎ 0956-80-6650



こども食堂



イベント



多世代交流



遊び体験



子育て支援

現在の活動を実施するに至ったきっかけ

ある日の母子健診の場面で、「自分が作った料理は全然口にしてくれないのに、ママ友が作った料理はおいしそうに食べているのを見て、何もかも自信がなくなりました」と涙を流しながらお話をされたお母さんがいました。初めての育児で、何が正解かわからない中、頑張らなければと一人奮闘していたのでしょう。家族や友達はいても、悩みを相談することができない状況だったと思います。裕福な家庭でも、一人親でも、貧困家庭でも、**だれでもゆっくり話せて、安心できる場所**が必要だと感じていました。しかし、行政として子ども食堂を実施している事例がなく、思い悩みながら行動に移せませんでした。その中で、課内の管理栄養士や保健師から「できない理由を挙げるより、できることを探してみよう」と背中を押してくれたことが、活動をスタートするきっかけとなりました。

みんな食堂の特徴

波佐見町の食のボランティア団体である「食生活改善推進員(以下、食改さん)」と連携してモデル事業「みんな食堂」を立ち上げました。活動の大きな目標は、「私たちの町に居場所が必要なことをみんなに知ってもらうこと」とし、誰でも行ける場所でみんなが集える場所を目指しました。そのため、子ども食堂ではなく、「みんな食堂」と名付けました。温かいご飯の提供は食改さんが行い、参加者の中に気になる子や配慮が必要な方がいれば、行政が見守り役となります。また、地域包括支援センターと連動し、生活支援コーディネーターや住民有志の「居場所キャラバン隊」からのバックアップもあり、互いの強みを生かした連携体制を整えることができたと思います。

活動する中で感じていること

現在までに計7回、毎回100名ほど参加されるみんな食堂ですが、活動の中で気づいたことは、「保護者の休息につながる」という点です。子ども達は純粋に参加者との交流を楽しんでいますが、同伴する保護者の方々を見ると、ほっとした表情が伺えることが多いです。その背景には、日々忙しいため、子どもたちとゆっくり過ごす時間がないという事情があると思われます。時々、「子ども食堂を無料飯と勘違いしてくる人がいる」「子どもに食事を作らない親をなぜ支援するのかわからない」という意見を耳にします。「ただ飯」との認識であったり、「母親の怠慢」に見えたとしても、その人の心と身体をサポートにつながる可能性があるのであれば、間違いじゃないと考えています。それが、貧困や虐待抑止につながる可能性があるからです。

活動していくうえでの課題、今後の展開など

みんな食堂はあくまでもモデル事業です。やってみることで見えた成果と課題を整理し、今後は、居場所づくりに興味がある団体や個人の方をサポートしていく予定です。また、誰でも参加できる居場所は、役場の窓口では把握できない要支援者をキャッチする貴重な機会になります。勇気を出して参加していただいた方の不安や悩みを引き出せる人材の確保が課題と感じています。ただ居場所を設けるだけでなく、地域の見守り力を上げることで、生きづらさを抱えながら生活する一人ひとりが健やかに暮らすために、必要な人に必要な支援が届く居場所を目指したいと思います。そのためには、事業者や団体だけでなく、行政も首を突っ込んで、地域みんなでまちづくりに取り組んでいきたいと思います。



自由楽校 ゆめまある

“居たい”
“行きたい”
“やってみたい”
を
叶える夢の家



- 🏠 自由楽校ゆめまある
- 📍 東彼杵郡川棚町
- 🕒 火・水・金・土(10:00~15:00)
- 💰 月額10,000円／スポット利用 1回2,000円
(※年度により変動有り／別途入会金等)
- 👤 不登校もしくは登校に不安や困難を抱える小学生～高校生
- 💬 まずはお気軽にご相談ください
- 👥 一般社団法人 かわたなキッズ
- ☎ 090-5022-2789 ✉ kawatana.yume.kids@gmail.com
- 🔗 「親の会」のみの利用も可能です



公式サイト



Instagram

活動のきっかけから居場所の開設まで

きっかけは我が子の不登校。発達特性もあり、入学当初から学校に通うことが苦しかった兄妹2人がいよいよ不登校になった時、この子たちが笑顔で生きていくためには第3の居場所が必要だと思い、せっかくやるなら不登校の子ども達を集めて一緒に挑戦してみようという決心。生きづらさを抱える子どもと親が安心して個性を開花できる居場所を目指して『かわたな夢のキッズハウスプロジェクト』と『親の会』を発足しました。

親の会では定期的に不登校の子をもつ親同士で気持ちを吐き出したり共に学びあい、親が元気で前向きでいられることも大切に活動しています。

さて、2023年にはじまったこのプロジェクトには、不登校の当事者親子や地域の有志など約10家庭が集まり、「場所」「人」「資金」の募り方を模索するところからスタートしました。

周知と資金集めのためにはじめた、近隣のイベントでの“ダンボールめいろ”はその一連の作業を通して大人も子どももどんどん仲を深めるきっかけに。

そして2024年6月、WAM助成に採択されたことにより、いよいよ待望の居場所『自由楽校 ゆめまある』の開設に至ります。

居場所の名前はゆめのような間(時間・空間・仲間・隙間・瞬間)がある居場所という意味で“ゆめまある”。冠に“自由楽校”とつけたのは、学校に行きたいけど色々な事情で行けない子たちが、「自分も“がっこう”に所属しているんだって感じることができる」という声があったからでした。

当事者の子ども達と共に作る居場所

プロジェクト立ち上げ当初は家から出て人と関わり合うことに抵抗があった子ども達も、「支援される立場」としてではなく共に活動するプロジェクトの「仲間」として関わってきたことで、ゆめまあるを開設し新たな利用者さんを受け入れる頃には、すでに顔つきが立派な“先輩”になっていました。

子ども達自身が自然体でそこに来る全ての人にゆるっと受け入れる空気感を醸し出しているので、ゆめまあるはとにかく居心地の良さが抜群で、開所からわずか3ヶ月であっという間に利用者が予定定員を超えてしまいました。

大人はあたたかくておいしいご飯を提供しながら子ども達自身の関わり合いや気持ちの方向性を見守っています。決して強制はせずきっかけだけをそっとちりばめ、「やりたい」の芽が出るタイミングを大切にしながら、子ども自身の持つ力を信じて任せて共に楽しんでます。

そしてここで育まれるそんな子ども同士や大人との関係性こそが安心感や肯定感として心の土台となっていることで、子ども達が本来持っている「やってみたい」という気持ちが生まれてきています。

また、月に1度のスペシャル体験Day『親子の会』では居場所での関係性が育まれたからこそできるちょっと勇気のいることや、大人数での活動も徐々にできるようになり、子ども達の成長を感じられる機会となっています。パパたちも積極的に参加してくれるんですよ。

そして「学校ではなくても、自分も自分の意思でやっていることがある」「できるようになったことがある」「友達がいる」ということが自信となり、学校や社会に足が向くようになる子もいます。

民間だけで、利用者の金銭的負担を上げずに運営を続けていくのはとても困難です。子どもの居場所の必要性が当たり前認められ、どの子も学校と同等に無償で通える居場所があり、自分にあったカタチで自信をつけ、のびのびと個性を開花できるようになる日がくるといいなと思っています。



地域を編む
「女性たちのネットワーク」
子どもを守る

長崎ひまわり プロジェクト

こどもと
子育て家庭を見守り
笑顔あふれる地域を目指して



🏠 地域を編む「女性たちのネットワーク」 子どもを守る
長崎ひまわりプロジェクト

📅 「健康応援広場」 ・県内で開催 不定期
・行政と連携して開催 食料配布、相談 無料

❓ 食料提供、支援・連携などのご相談は随時

☎ 095-822-5175 (長崎県更生保護女性連盟内)

〒850-0007 長崎市万才町8-16 長崎保護観察所内

Instagram [nagasaki_himawari](#) で 検索



イベント



子育て支援



Instagram

地域の「こども・子育て家庭」にやさしい 地域社会の実現を目指します

県内で活動している女性中心の23団体で構成され、こどもと子育て家庭に声をかけ、励ますなどの活動を通して、「地域の子どもは地域で守り育てる」ことを目指し、笑顔あふれる地域社会になるよう活動しています。

私たちの登録団体は、積極的に地域で連携し協力しあえるような顔の見える関係づくり、各団体の専門性を活かした取り組みなどで、こどもの育ちに寄り添い、こどもと子育て家庭をサポートしています。

活動内容は 人と人 人と地域をつなぎ 寄り添い こどもの育ちを見守ります

地域では挨拶・声かけを基本とし、見守りの意思表示として、ひまわりを植栽。ひまわりとともに地域を見守り、こどもたちの心のよりどころとなるように活動しています。また、行政とも連携をとりながら、子育て家庭へ食品の無料提供、専門職による相談事業を実施し、こどものサポート・心の居場所づくりなど子育て家庭の応援を行っています。

2023年12月には県・県青少年育成県民会議とともに、「みんなで創ろう こどもの笑顔あふれる長崎県」という「こどもまんなか応援サポーター共同宣言」を行いました。

官民協働で、こどもの育ちを支える「3つの風」、①抱っこ風②コミュニケーションの風③体験の風を吹かせるよう23団体の専門性を活かし、県民にむけて「3つの風」の啓発に努めます。

「健康応援広場」・・・無料の食材提供と こころの居場所としての専門職の相談支援

コロナ禍・物価高騰と未来を担うこどもたちを育てるには大変な世の中です。「健康応援広場」では育てる側にも寄り添い、行政と連携して地域の実情に合わせて会場型・園配布方式で、食品の無料配布を行っています。

会場型では(R6年実績 7月、9月長崎市・11月西海市・12月諫早市など)、子育てに直面している悩みに対して専門職による相談も行い、こころの居場所として育てる側の声も聴き、深刻な場合にはすぐに行政に実情が反映するよう連携し推進しています。

加盟団体

長崎県地域婦人団体連絡協議会／長崎県栄養士会／長崎県看護協会／長崎県更生保護女性連盟／長崎いのちの電話／長崎県歯科衛生士会／親子の安心と学びを支えるネットワーク／ガールスカウト長崎県連盟／長崎県交通安全母の会連合会／長崎県国公立幼稚園・こども園協会／長崎県商工会女性部連合会／JA長崎県女性組織協議会／長崎県助産師会／ながさき女性活躍推進会議／長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会／長崎県退職女性校長会／ながさき広がるネット(長崎県男女共同参画社会推進者のネットワーク)／長崎県BBS連盟／長崎県ながさきファミリープログラムファシリテータの会／長崎県保育協会保育士部会女性部／長崎県臨床心理士会／長崎県母子寡婦福祉連合会／長崎県民生委員児童委員協議会